

# 令和3年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報告書



日時	令和3年10月27日(水) 18:30~		
場所	山部福祉センター		
参加者数	17人		
市側出席者	市長	北	猛俊
	副市長	石井	隆
	総務部長	稲葉	武則
	スマートシティ戦略室長	西野	成紀
	市民生活部長	山下	俊明
	保健福祉部長	柿本	敦史
	経済部長	川上	勝義
	建設水道部長	小野	豊
	教育部長	亀淵	雅彦
	企画振興課長	関澤	博行

## 【市長 開会のあいさつ】

本日は山部地区の地域懇談会に大勢の皆さんにお集まりいただき、心からお礼を申し上げます。コロナの感染が報告されてから2年になろうとしています。この間、不自由な生活を強いられ、いつもとは違う生活の中でストレスを感じていると思います。10月からは緊急事態宣言が解除され、感染者が激減してきている状況です。終息に向かうとありがたいと感じています。しかし、第6波という話もあり、依然として油断は許さない状況ですが、少しずつ生活に関わる規制も解除される傾向にありますので、肉体的な部分と精神的な部分を合わせて健康を維持してほしいと思います。

今回の地域懇談会は、テーマを設けることなく、地域の課題や日頃から思っている意見を出していただき、意見交換をしたいと思っています。情報提供もありますが、JRの関係では、7月の根室本線対策協議会が開催されたときに、諸般の事情からJR北海道が提案している内容について検討を始めることになっています。また、診療所は博友会が開設者になり継続してきましたが、今年度は医師の確保が難しいということでした。しかし、博友会に理解をいただき、1年限定で継続することになりました。皆さんからも継続に向けて強いご意見をいただき、何とか医師の確保ができないか検討し、地域の皆さんにもご尽力をいただきながら、医者確保に努めてきました。オンラインで医者と話して病気の対処をしていく遠隔診療という方法も含めて、医師会で検討をいただき、何とかこの診療所を継続するような形で協議をしているところです。しかし、全てが地域の皆さんの期待に沿えるものになるかどうかわかりません。例えば週に何日くらい診療できるのか、時間的なものも含めて詰めていますので、ご理解をいただきたいと思います。

未来をつくろうということで、将来に向けての山部地域の振興につながるということで、企業からウイスキーの醸造施設を作りたいと市に相談がありました。木工場の跡地を紹介しましたが、広すぎるということで次の土地を探しました。山部地域の振興にも大きく関わっていただける企業だと考え、立地的にも山部の自然環境がウイスキーの醸造に適しているということで、公営住宅跡地と、山部中学校跡地を紹介し、山が見える山部中学校の環境に好感触を受けていただきました。小規模な貯蔵施設ということでグラウンドを使いたいという意向でしたが、将来的には見せる施設にしたいという考えもあり、学校の校舎と教員住宅の利用も希望している状況で、大きな雇用の場にもなると感じています。12月から地質調査に入るとことで、地域の皆さんにはご協力とご理解をいただきたいと思います。現在、ブルーリッジが野球の練習に使っていますが、行政として代替地の対応を検討させていただきます。地域の皆さんにもご協力もいただかなければならない課題になっています。後ほど詳細について説明したいと思います。ICTを活用した市民の利便性と生活の豊かさをつなげていくための取り組みを進めています。その第1弾として除雪の効率化を上げる作業機にスマホを載せて位置情報や作業内容が確認できるような体制を組みました。昨年は実証実験を行い、今年は全ての除雪車両にスマホを載せて、スムーズで効率的な除排雪体制に努めたいと思います。本日説明するのは、AIを活用したオンデマンド交通ということで、市内に限られた地域ですが、この地域を移動するときの交通体系です。山部の方々も富良野市街地に出向いたときには活用できますので、ご意見をいただきたいと思います。

概略だけ説明しましたが、地域懇談会ということで市民の皆さんが思っていること、忌憚のない意見交換をしたいと思いますので、ご協力をお願いします。

## 学校跡地利活用（山部中学校跡地）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○厚岸ウイスキーの蒸留所を山中学校跡地のグラウンドに立てるということだが、現状、ブルーリッジが使用しているので非常に困っている。練習場がないとどうしようもない。今年は山部に20名の選手が来た。来年は20名を超える選手たちが集まる予定になっている。練習場所がないと野球の活動ができないので、市民野球場を練習場として使わせてほしい。現在は市民野球場を試合前の練習にも使えない。非常に困惑している。なんとか練習場と試合で使わせてほしい。</p> <p>○ウイスキーの蒸留所は3,000㎡を使用するということだが、中学校跡地の校舎と体育館も利用するのか教えてほしい。</p> <p>○中学校の跡地利用は、住民からも非常に多くの要望が寄せられている。屋根の痛みも激しく、年数が経つと痛みが激しくなって利用できなくなる。蒸留所には成功してもらいたい。校舎の跡地利用について、積極的に進めてほしい。</p> <p>○山部中学校の利活用問題で言うと、校舎は必要ないが体育館は使い方によっては利用できる。近隣では美術館にしている。写真館にも使える。場合によっては避難場所にすることもできる。富良野には美術関係の施設がない。そういう使い方も考えてほしい。</p>	<p>○山部中学校跡地のグラウンドの関係は、ブルーリッジが野球の練習をする代替地を検討しています。選手が移動手段を持っていないということで、自転車で山部中学校跡地まで来ている状況だと聞き、山部地域の中で確保しなければならないと理解しています。醸造所を受け入れるという地域の意向が確認されたら、代替地として可能な限り市民野球場の利用を検討したいと思っています。ブルーリッジの球団役員とも話をしています。グラウンドの維持管理を選手がやるという意向も伺っています。ただし、グラウンド内だけではなく、市民野球場の維持と保守ということになれば、周辺部分について地域の協力をいただく必要があると思っています。現在、市民野球場の管理はスポーツ協会に指定管理でお願いしています。利用日程は軟式野球連盟と調整をしてほしいと思います。</p> <p>○山中学校跡地利活用の全体計画で3,000㎡というのは、土地を探すときに参考にした面積です。山部中学校跡地は学校が建っている場所だけで2,500㎡あり、グラウンドが2,100㎡ぐらいです。小規模の蒸留施設であればグラウンドの敷地で間に合いますが、将来的に蒸留場を見学させることも考え、陸上競技場は駐車場として使いたいとの意向です。校舎で物販するなど、構想では校舎と体育の活用も考えていると聞いています。</p>

## 防災

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○山部地区の避難所は、小学校と中学校の2カ所あったが、中学校が使えないということで、山部市街地に住んでいる人は山部小学校に集まることになる。一時的に避難する場所を作る考えはあるのか。</p> <p>○5年前の洪水で非難したのは山部中学校だった。山部中学校の跡地利活用の話が出ているが、絶対に山部中学校を避難場所にしてもらいたい。それで駄目なら寿光園にしてもらいたい。水の災害だと山部小学校は水の底になる。何とか中学校の体育館を残してもらいたい。</p>	<p>○山部小学校が大きな避難所ですが、市街地区にあるコミセン、北星コミセン、南陽コミセン、生涯学習センターも一時的に非難する場所です。寿光園も必要なときは避難することができます。山部地区に住民が1ヶ所に集まるということは無理だと思います。重点的に集まるのは山部小学校ですが、洪水で1階が危ないときは2階に避難するというのを考えてほしいと思います。</p> <p>○平成28年の洪水では、国道38号線に水が流れるということで、線路より上に避難してもらいました。山部小学校は水に浸かるので使えないという判断でした。災害が発生したときは、その状況に応じて逐一調べながら一番安全な場所はどこかを皆さんに情報提供します。寿光園にも避難することができますので、皆さんに伝わるようにしていきたいと思っています。</p>

## 地域医療

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○来年度の診療所は本当に嬉しい話で感謝している。昨年は2回の説明会に50人も集まり、気にしていた案件だった。非常に嬉しく思う。明るい話題と安心を得られた。市長の言った健幸都市づくりに感謝している。</p>	

## 農業

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○北海道から担い手確保を目的に農業体験を考えている団体はないかと案内がきた。山部まちおこしネットワークは、修学旅行の体験を受け入れていて、一般の人も何件か受け入れてきた。農業の担い手確保という観点から、約1週間の日程で、収穫時期を狙って、ボランティアという形で体験する人を募ってきた。関係人口が増えて富良野のPRにもつながるということで、期待して会議に出席した。担当は農林課で、事務的なことは自分たちでやってほしいと言われた。第6次総合計画も始まり、新たに動き出したスマートシティ構想の中でも、これからの農業と観光を推進するのに何もできないという話はどういうことか。市民がいろんなところに行って相談しても、何もできないと言われたらどうしようもない。</p>	<p>○エントリーして採択される事業かと思いますが、例えば地域でやっていただくもの、あるいは行政が支援をするもの、いろいろなパターンがありますので、後から詳しい話を聞きたいと思います。</p>

## 観光

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○コロナで経済が落ち込んだ中で、市にお金が落ちない状況が続くと経済的にも影響が大きい。市全体として今後どのような考え方をしているのか教えてほしい。</p>	<p>○コロナウイルスの関係で市の経済は非常に打撃を受けています。富良野は観光に依存している部分が多いため、打撃も非常に大きいという話もあり、対応を検討しているところです。今年の春から上向いていくと予測していましたが、緊急事態宣言が出て夏の観光の宿泊施設の稼働率が2割から3割ぐらいということでした。9月議会で中小企業を支援する補助金を可決していただきました。外国人観光客が戻ってくるのは2年から4年後という予測もあり、道内客の誘客をしているところです。宿泊の補助や冬季観光のコンテンツを作り、データを集めてダイレクトに富良野の情報が届くように効率的な集客に取り組んでいます。繰り返し誘客を進めていきたいと考えています。</p>

## 公共交通

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○鉄路は将来的に非常に厳しい決断をすることになると気にしている。二次交通は非常に大事になってくる。山部地区にも自分で思うように外出できないという人もいる。ぜひそういう方にも気軽に使える二次交通をつくってほしい。ワーケーションでいろんな方々と話をするが、富良野は二次交通が非常に不便だと聞く。冬場はレンタカーを借りても危険で怖いので、ワーケーションで来るのが難しい面があると言っていた。二次交通のいろんなアイデアを出してもらい、不安を解消してもらいたい。</p>	

## 公共交通（乗り合いタクシー）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○ちょい乗りタクシーの実証実験について、他の自治体でやっているところがあれば教えてほしい。</p>	<p>○電話やスマートフォンでタクシーを呼び、AIで最適ルートや運行時間を算出し、乗り合いで最適な配車や運行を行うもので、マイカーがなくても安心して移動できるような実証実験です。この取り組みは、高齢者が運転免許証を返納したときの交通の確保や、子育て世帯の買い物や通院での利用に応えるものです。第6次総合計画をつくる時、30年後の富良野はどうあるべきですかという質問に対し、車がなくても不便しない生活環境を望む声が最も多く、55%の市民が望んでいたことが背景にあります。実証実験は1カ月間で、運行範囲は富良野市街地の赤く囲ったエリアです。運行時間は午前8時から午後7時で、家の前から目的地まで運ぶというのではなく、200ヶ所の仮想停留所が、アプリ上で確認でき、スマートフォンで申し込むときに、乗車する停留所のボタンと目的地を押すと運行時刻が表示されるというものです。電話で予約すると、何分後に迎えに行くというアナウンスがあります。10月18日から無料モニターを募集し、90名が登録しています。まだ110名ほど空きがあります。実際運行するのは富良野タクシーと中央ハイヤーです。仮想停留所の位置や運行エリアの範囲など様々なデータを取り、本格運用する際の料金体系についてアンケートをとることも考えています。他自治体の評価では、渋谷区、豊島区、京丹後市が実証実験をしています。実証から本格運用に移っている事例もあります。</p>

## スマートシティ

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○AIの話があったが、除雪以外のことでこれからどのように発展する考えがあるのか教えてほしい。</p> <p>○高齢者がスマホを使うのは難しいのでタブレットだと簡単に使いやすい。高齢者施設の面会で使うことも非常に良いこと。ぜひ全ての家庭と高齢者施設で活用してもらいたい。</p>	<p>○昨年、除雪機械にGPS付きのスマートフォンを搭載し、昨年の12月から1月の2ヶ月間にかけて、除雪機械6台がどのようなルートで運行しているのかを見える化する実験を行いました。作業効率が約18%軽減されたという結果が出たことで、今年度から全車両にスマートフォンを搭載し、除排雪の見える化をする取り組みを行います。</p> <p>○デジタルを使った展開ですが、今年度はAIオンデマンド交通のほか、高齢者宅に声だけで操作できる端末使って電話したり、音楽を聞くなどの実証実験も行います。市内で20名が11月から実証実験に参加し、民生委員児童委員や町内会の役員、東山地区でも配布しています。高齢者の外出機会が少なくなっている中、高齢者同士がテレビ会議に参加したり見守りにつながるものです。将来的には地域通貨や商品券をキャッシュレスで使ったり、脱炭素の分野にどのようにデジタルを導入していけるのかを検討しながら、順次取り組みを進めていきたいと考えています。</p>



## マイナンバーカード

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○マイナンバーカードの利用を普及させようとしているが、なかなか進まない。健康保険証や運転免許証について、これからの取り組みを教えてほしい。</p>	<p>○マイナンバーカードは10月15日現在で、富良野市では7,436枚の方に交付しています。交付率は35%です。健康保険証や運転免許証の活用などが予定されています。運転免許証は少し先ですが、健康保険証は一部でスタートしています。健康保険証の利用は、医療機関でマイナンバーカードを読み取る機械を設置する必要があります。使えるようになった場合は周知したいと思います。市役所ではコンビニ交付を来年の2月頃からができるように準備中です。コンビニに行くと、入り口付近にコピー機がありますが、マイナンバーカードを入れて住民票、印鑑証明、所得証明、課税証明が取得できるようになります。正式な開始時期が決まりしだいお知らせします。マイナンバーカードは交付手続きに1ヶ月から1ヶ月半かかりますので、早めに市役所や山部支所で手続きをしてほしいと思います。</p> <p>○マイナンバーカードで利用できるものは広がっています。目標は、全市民がマイナンバーカードを持ってもらうことですが、現況は35%で全国平均と同じくらいです。100%市民の皆さんに持っていただいて初めてデジタルの活用ということにもつながると思いますので、地域の中で普及するようお願いしたいと思います。</p>

## ふるさと納税

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○ふるさと納税の返礼品の会議があつて参加した。市として重点的な方策としての考えをくわしく説明してほしい。</p>	<p>○ふるさと納税の事業者説明会の件ですが、今までは富良野物産観光公社に取りまとめをいただいで、富良野市のふるさと納税の返礼品をさとふるやふるさとチョイスというポータルサイトに出していました。取り扱いが増えてくると、物産観光公社では難しいという話があり、これまでのやり方を大きく変えて、中間事業者に入ってもらい、事業者が直接登録するようなやり方に変えました。随時、リニューアルを進めて11月と12月にかけてポータルサイトも増やす予定でいます。事業者登録は、山部地域でメロンを生産している事業者も直接登録しています。市では登録の際に、市の担当者が事業者と中間事業者との間に入り、連携を取りながら対応しています。事業者説明会は終わりましたが、随時、事業者を募集し、個別に対応していますので企画振興課に相談してほしいと思います。</p>

## 教育

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○山部は平和宣言の発祥地で、富良野市も2010年に宣言している。議会で言葉を述べるだけでなく、何かの形で記憶に残るような教育、啓蒙をやってもらいたい。今までの市役所には非核三原則の看板があつたが、新庁舎にはなくなると思う。看板をつけろとは言わないが、何かの形で富良野は平和のまちだということを引き継いでやってほしい。平和祭のときに子どもたちの考え方を述べてもらうとか、子どもたちの記憶に残ることをやってほしい。</p>	

## 【市長 閉会のあいさつ】

限られた時間の中でしたが、熱心にご意見をいただき、情報提供についてもお聞きいただきました。地域懇談会ということで開催しましたが、皆さんの意見を行政はいつでも聞けるような体制になっていますので、また明日から生活する中で、お気づきの点があれば、遠慮なく役所に来ていただいて、意見提言をいただきたいと思います。懇談をしなければなかなかお互いの思いが通じないということもありますが、そういう場に、この地域懇談会が役割を果たすことができればありがたいと思います。

11月ということで、もう少しで師走の時期を迎えます。コロナで大変で、大変なまま終わるということはないように、少し明るい材料も見えてきましたし、来年は明るい年になるという期待を持てるような形で、今年の1年を締めくくられますよう、心からご祈念をさせていただきたいと思います。

## 【参加者アンケートの主なご意見】

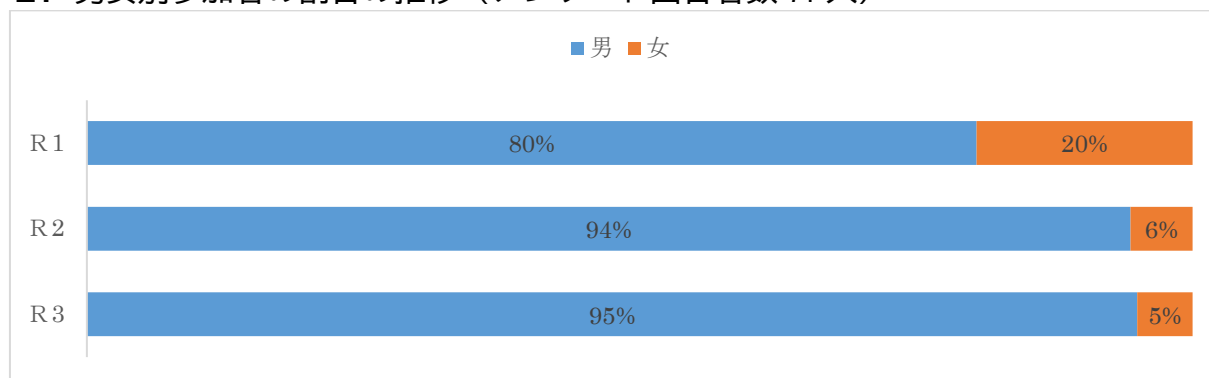
年齢区分	性別	ご意見
50-59 歳	男性	JR もちよい乗りタクシーも 19：00 頃の最終便ではなく、もう少し遅くまで運行してほしい。
50-59 歳	女性	ICT の活用はとても興味深い話だった。高齢者が増えていく中で簡単に扱えるように対応してほしい。
60-69 歳	男性	何もできません。ということがないようにしてほしい。
70 歳以上	男性	地域医療の充実。防災対策の強化
70 歳以上	男性	防災が一番重要。

# 令和3年度「地域懇談会」アンケート集計結果

## 1. 参加者数

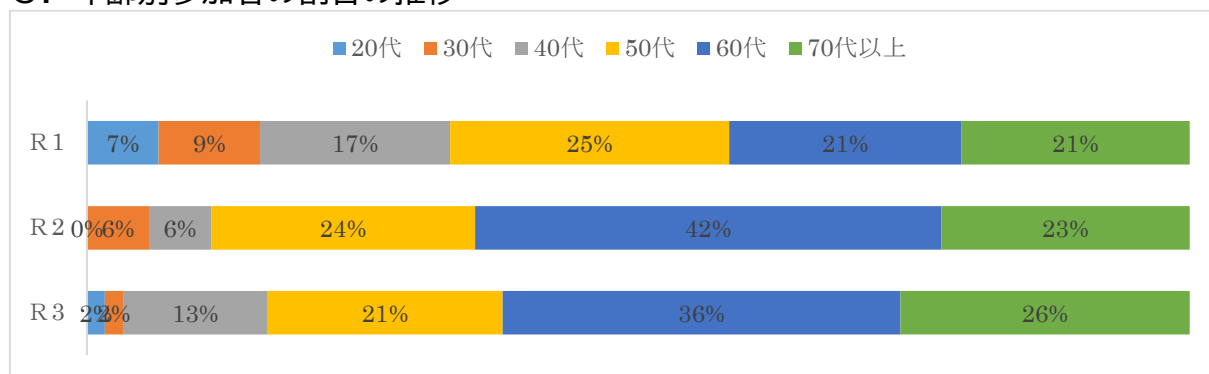
	場所	地区名	H30	R 1	R 2	R3
10/21	文化会館	朝日会館	29	24	20	11
		栄町コミセン	30	33		
		北の峰コミセン	28	26		
		西地区コミセン	56	52		
		未広コミセン	40	42		
10/20	ふれあいセンター	布部会館	23	26	7	7
		鳥沼会館	38	28		
		東春コミセン	29	22		
		南コミセン	51	32		
		瑞穂コミセン	55	21		
		麻町児童センター	27	29		
10/27	山部福祉センター	山部福祉センター	24	22	18	17
10/28	東山支所	東山支所	32	40	24	27
10/26	麓郷集落センター	麓郷集落センター	34	39	10	15
		布礼別集落センター	27	17		
計			523人	453人	79人	77人

## 2. 男女別参加者の割合の推移（アンケート回答者数 71 人）



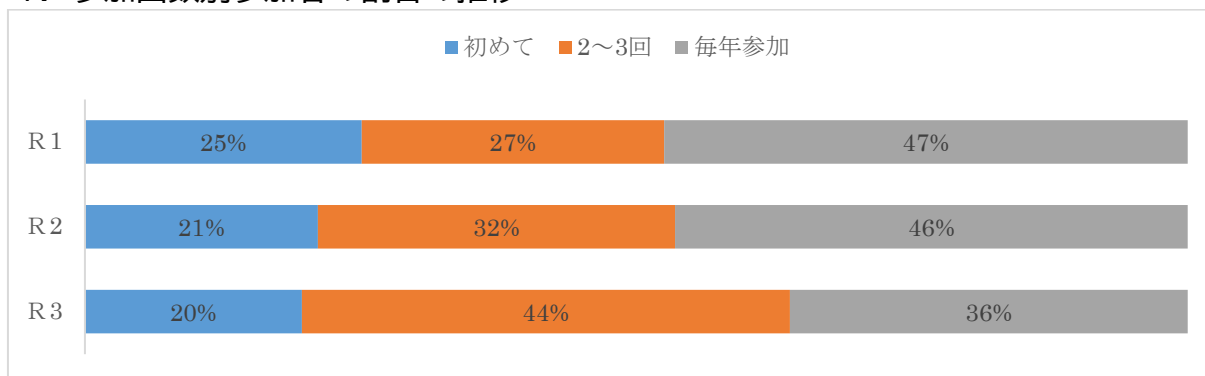
男女比率は昨年度と同程度

## 3. 年齢別参加者の割合の推移



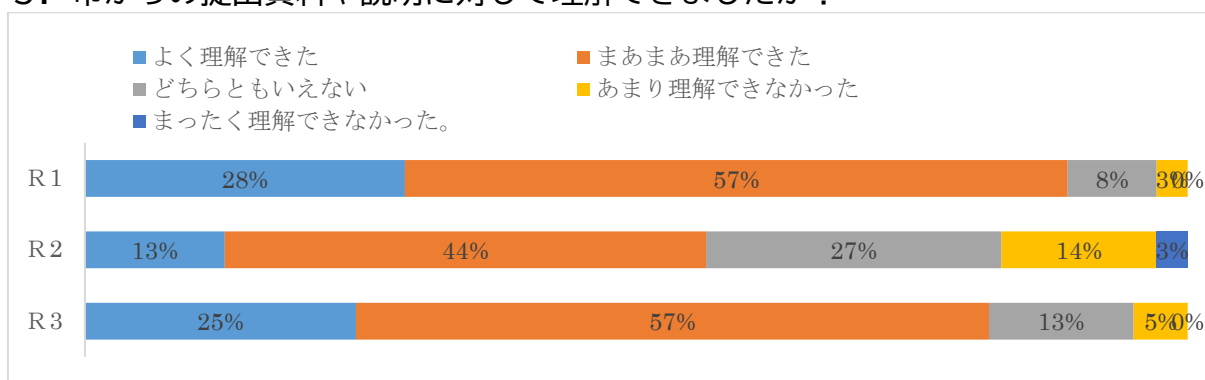
60歳代以上が52%。50歳代の現役世代は48%の割合

#### 4. 参加回数別参加者の割合の推移



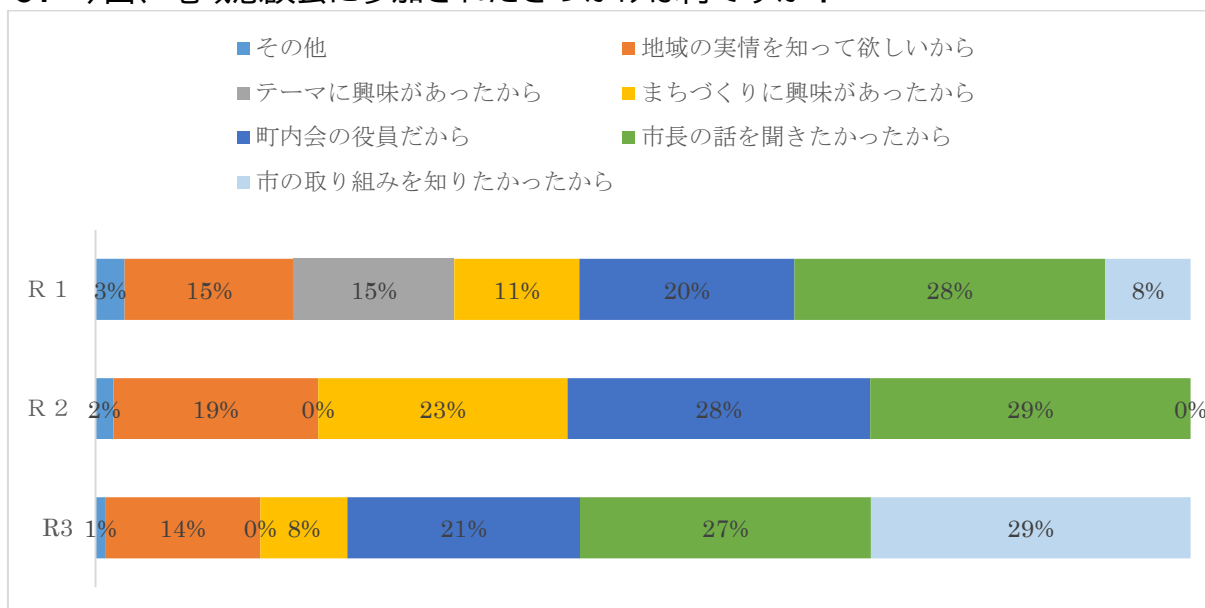
2～3回参加の割合が44%と最も多い

#### 5. 市からの提出資料や説明に対して理解できましたか？



理解できなかった5%に対し、理解できたが82%と高い割合となった

#### 6. 今回、地域懇談会に参加されたきっかけは何ですか？



「市の取り組みを知りたかった」が29%と最も高く、「市長の話を聞きたかった」は27%、「町内会役員」は21%だった。